

原木生産のさらなる拡大

原木生産量

現状(H26) : 61万m³ ⇒ 4年後(H31) : 78万m³
⇒ 6年後(H33) : 81万m³ ⇒ 10年後(H37) : 90万m³

現状

- 県内の森林資源は毎年約300万m³増加
- 順調に伸びてきた原木生産量が60万m³で足踏み
- 製材用原木に加え低質材の需要が増加
- 事業地が奥地化し、小運搬距離が長くなり、搬出コストが嵩むことから低質材の搬出が進まない
- 高知県の地形に適した、欧州型の架線系作業システムの導入が始まった

これまでの取り組み

原木の増産・生産性の向上を目指して

◇森の工場の拡大

- ・搬出間伐の推進

事業地の確保(集約化)

- ・路網の整備(開設・改良等)

林道+林業専用道+森林作業道
= 路網配置計画

- ・高性能林業機械等の導入

高性能林業機械の導入と組み合わせ

◇皆伐の促進

- ・集材架線の架設
- ・路網の整備(開設・改良等)



見えてきた課題

- ① 新型で高効率の林業機械は高額で導入が困難
- ② 作業班数に対して林業機械の数が不足
- ③ 低質材の仕分けに必要な中間土場が確保できない
- ④ 適切な路網の配置が出来ていない
- ⑤ 現場に合った作業システムが導入できていない
- ⑥ 生産性の把握ができていない
- ⑦ 利用期を迎えた豊富な森林資源に対して、労働力が不足

労働力不足を補うためにも
生産性の向上が必要!

平成28年度からの取り組み

森林組合支援WGによるサポート

- ・功程分析によるボトルネックの洗い出し等
- ・効率的な作業システムの構築支援(マニュアル作成)

生産性の向上と原木の増産

効率的な生産システムの導入促進

現場の条件に合った、路網整備と高性能林業機械のよりよい組み合わせにより、ボトルネックとなる工程を改善し、生産性を向上

◆路網の整備促進

- 林業事務所ごとに「林道整備促進協議会(仮称)」を設置し、WGにより林道開設を促進
- 大型トラックが走行可能な、既存林道を核とした林業専用道や森林作業道を組み合わせ合わせた計画的な路網整備の促進
 - ・大規模な「森の工場」の補助対象期間を延長
5年→10年

- 既設作業道の改良や災害復旧の対応

- 中間土場の整備

◆高性能林業機械等の整備促進

- 原木生産の効率化、労働強度の軽減

- ・高性能林業機械等の導入

- ・林業機械の改良等

- ・林業機械のレンタル

改良とレンタルは対象エリアを拡大
森の工場→県下全域(皆伐事業でも可能)

- 林業機械の開発プロジェクトのスタート

森林組合の生産性向上支援

功程分析等によるボトルネックの洗い出しと改善支援による生産性の向上

- 森林組合支援WGによるサポートの拡大

- 生産システム等の改善に必要な経費を支援

- ・試用用の高性能林業機械のレンタル

- ・架線集材等の講師派遣

- ・先進事業体での研修 等

皆伐と再生林の促進

原木生産のさらなる拡大と安定供給

- 皆伐施業の効率化

- ・集材架線の架設や作業道の開設

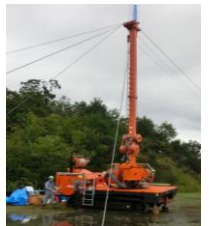
- ・林業機械の改良、レンタル 等

- ・架線集材等の講師派遣 等

- 再生林の促進

- ・苗木の生産体制の強化

- ・再生林への支援と低コスト育林の推進



(タワーヤータ)

成果

| 生産量 | H24 | H25 | H26 | H27 |
|---------------------|------|------|------|------|
| 単位: 万m ³ | 46.5 | 49.5 | 61.0 | 59.2 |

